

人材システム改革構想・概要

- 提案構想名 「次世代研究スーパースター養成プログラム」
○総括責任者名 「 総長 梶山千里 」
○提案機関名 「 国立大学法人 九州大学 」

機関の現状

研究ポテンシャル

本学は、人社系・理工系・生命系等の広範な領域に約 3000 人の研究者を擁する総合大学である。また、戦略的教育研究拠点育成プログラム 1 拠点・21 世紀 COE プログラム 9 拠点を有し、世界的研究拠点の形成が進められている。

若手研究者育成に関する取組の実績

平成 16 年度より、優秀な若手研究者 20 名に対する 3 年間の特任助手採用支援による研究時間確保の制度（研究スーパースター支援プログラム）を、また、平成 17 年度より、若手研究者による文理融合型研究に対する公募型学内助成制度（P&P D-type 区分）を導入している。

人材システム（任期制、年俸制の導入等）の概要

任期制については、既に 12 の部局が導入し、九州大学全体では 47%の教員について適用している。また、年俸制については、現在のところ特任教授 6 名に対して適用している。

人材システム改革構想

人材システム改革の目的

学術研究活性化のためには、特に若手研究者の独創性が存分に発揮されることにより、新たな研究領域が創出されることが重要である。「次世代研究スーパースター養成プログラム」は、将来を嘱望される優秀な若手研究者が、出身講座や他の研究者からの支配的干渉から自立して独創的な研究に専念できる環境整備・支援体制構築を全学規模で行い、以て研究状況の活性化に寄与することをその目的とする。

本プログラムの概要

まず、本プログラムに参加する学内部局を、その組織改革・新領域開拓構想につき審査し選定する。次に、国内外からの公募を通じて、若手研究者を「スーパースタープログラム（SSP）学術研究員」として期限付きで雇用し、①研究スペース・設備・時間・費用等の研究環境、②給与面での相応の待遇保障、③雇用期間終了後のテニュア・ポスト（准教授）の確保、等の支援を行い、研究に専念させる。これらのサポート機関として、**若手研究者養成部門**（SSP 学術研究員の組織上の所属機関。全学管轄として各部局から独立）・**外部有識者委員会**（研究活動につきヒアリング・アドバイスをを行う）・**若手研究者支援室**（事務上のサポートを行う）を新規に設置して、学内各部局から独立した支援体制を構築し、他の研究者からの支配的干渉を抑制する。養成期間終了時には、研究業績・将来構想等に関する審査を経た上で准教授へと昇任させる。そして、本プログラムを学内各部局における人事制度に組み込み、全学規模での人材システム改革と連動させる。

実施期間終了後の将来構想

実施期間終了後も、学内経費（総長裁量経費等）により本プログラムを継続・定着させ、さらに参画部局の拡大を図ることで、①優秀な若手研究者の育成・確保、②教員の流動化促進、③学内における組織改革・新領域開拓の促進、等を引き続き推し進める。

人材システム改革における達成目標（ミッションステートメント）

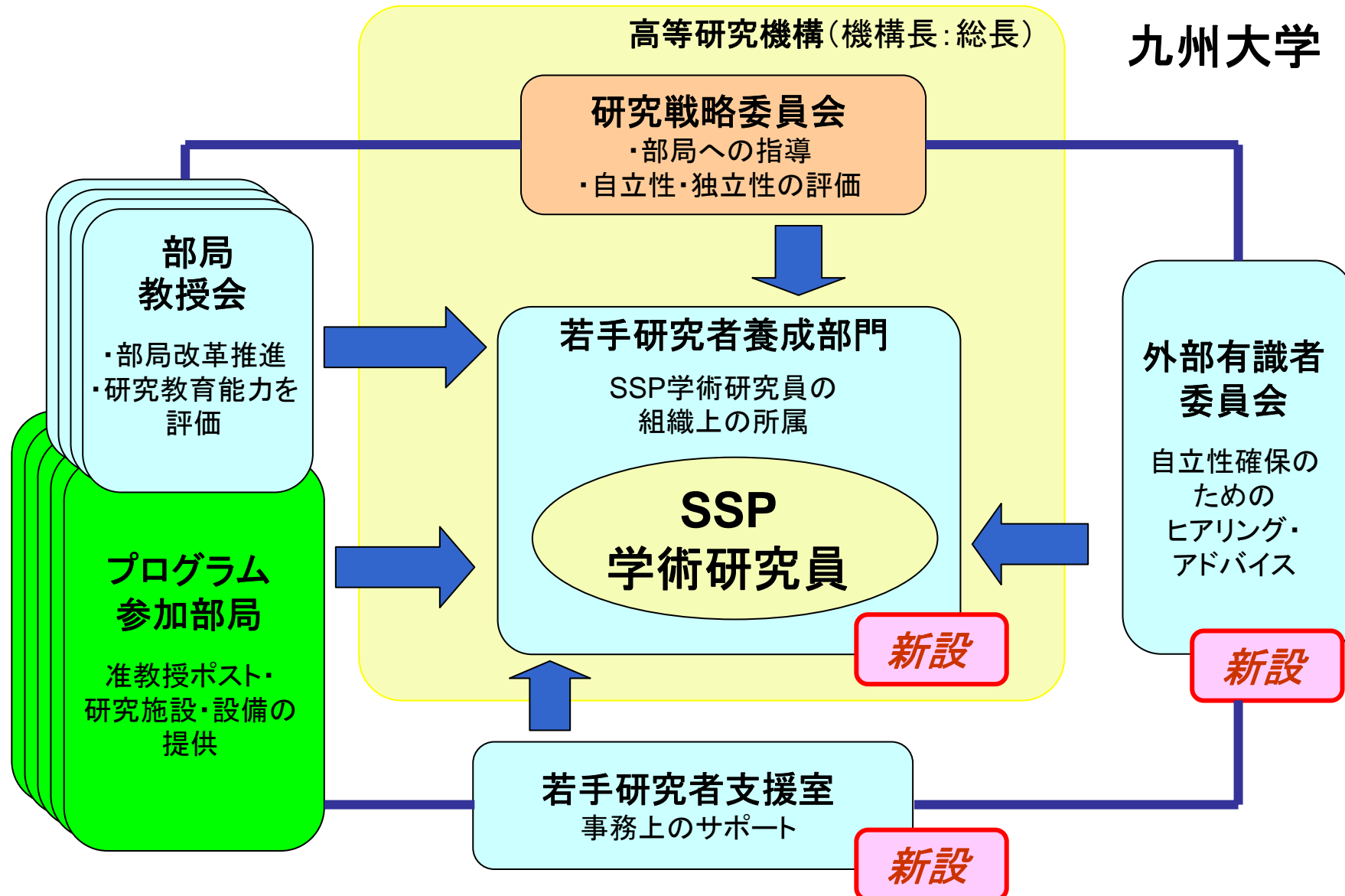
中間時（3年目）

支援体制整備を完了し実際に運営して、そのノウハウを蓄積する。また、養成期間内であっても、早い時期に開花し優秀な業績を収めるに至った SSP 学術研究員は、既定の養成期間（5 年）を待つことなく、審査を経て早期に准教授に昇進させる。

終了時（5年目）

採用された SSP 学術研究員を、審査を経た上で研究スーパースターとして准教授へ昇任させ、あるいは実績を携えて他機関へ転出させる。また、実施実績を支援体制の運営にフィードバックしてプログラム内容の改善を図りつつ、その後のプログラム継続・拡大のための学内予算の措置を行う。さらに、新規に参画する部局を募るとともに、新たな SSP 学術研究員の公募を行って本プログラムの実施規模を拡大し、人材システム改革をさらに促進する。

次世代研究スーパースター養成プログラム 実施体制図



次世代研究スーパースター養成プログラム 概要

